

芝地区公式SNSフォローしてね！

芝地区地域情報誌

VOL. 70

2025年3月発行

発行部数 31,250部

発行

港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1-5-25 (港区役所2階)

TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180

ボランティアの
編集委員が
つくっています



バックナンバーをWebにて公開中

芝情報誌

検索

SHIBA-TAG

しばタグ



祝 芝地区地域情報誌「しばタグ」70号

平成18年(2006)5月に創刊された「芝地区地域情報誌」は今回で70号となりました。
区民ボランティア編集委員が、地域の情報を足で集めてお届けして19年がたちました。
令和3年(2021)12月からは、愛称「しばタグ」としてリニューアルし、さらに親しみやすい情報誌となりました。
これからも芝地区の新鮮な情報、文化、歴史などを皆さまにお届けできるよう、心を込めて作り上げてまいります。



しばタグ 目次 VOL.70

- | | | | |
|-------------------------|----|------------------------------|----|
| ●祝 芝地区地域情報誌「しばタグ」70号 | P1 | ●芝会議って何？ | P6 |
| ●[芝の老舗] シクロサロン | P2 | ●生涯学習センター(ばるーん) | P7 |
| ●[Shiba Topics] 笑福亭羽光さん | P4 | ●[芝の家・ちゃぶ台日誌] 春編 | P7 |
| ●[キッズみらいルポ] 港区立芝小学校 | P5 | ●[芝地区さんぽまんが] しばテク ～芝地区テクテク～⑤ | P8 |
| ●町会・自治会TOPICS | P6 | ●芝地区地域情報誌「しばタグ」ボランティア編集委員募集! | P8 |



も芝の 老舗

自転車店

シクロサロン

昭和2年築の「シクロサロン植原」

芝五丁目の慶応仲通り商店街。道幅 3m ほどの狭い路地に、飲食店を中心に店がひしめき合っている。この通りに、昭和 2 年築の家屋があります。軒先には、自転車がモチーフの金具につるされた真っ赤なハートの看板。CYCLO SALON UEHARA※¹。スポーツ用自転車のオーダーメイド専門店です。

※1：Cyclo(シクロ)はフランス語で「自転車」の意味。



1973年「東京一大阪タイムトライアル」で新記録を打ち出した橋本治選手の監督として伴走車から指導をする写真や、港サイクリングクラブの写真など、自転車人生の軌跡があふれる店内

自転車愛の博物館

1 階は店舗。レトロな木枠のガラスの引き戸を開くと、天井から床まで、自転車のクラシックパーツやオーダーメイドの自転車が所狭しと並べられています。壁のあちこちに、自転車の形をした時計や、自転車関連グッズ、歴代オリンピック種目のポスターなどが飾られています。自転車愛好家にはたまらない博物館のような雰囲気です。

2 階の自宅にも自転車ラベルの空き瓶や自転車をデザインしたネクタイ、昭和 39 年(1964) のオリンピックのポスターやゴールの写真などが多数飾られ、自転車愛にあふれた博物館のようです。

白いおにぎりと自由な世界を拓く自転車

オーナーの植原郭^{うえはらかん}さんは、昭和 15 年(1940)に芝区で生まれ、この家で育ちました。もともとは、郭さんの祖父栄助^{えいすけ}が、明治 40 年(1907)に芝区三田四国町に創業した町工場でした。

植原家は江戸時代、安房勝山(現千葉)で代々庄屋を務めていました。明治 35 年(1902)に上京した栄助は、芝区本芝入横町にある、叔父の池貝庄太郎^{いけがいのしょうたろう}が経営する池貝工場※²に入社。5 年間の修行後、「植原鉄工所」を設立し、自宅兼工場^{いけがいのしょうたろう}で家族とともに営んできました。その後、父正雄が工場を継承。主に池貝鉄工の下請工場として稼働し、戦時中は軍の要請でフル稼働していました。

※2：明治22年(1889)に池貝庄太郎によって創設された日本の老舗機械メーカー。池貝は、日本初の国産旋盤を製造したことで知られています。



ガスから電気の使用に変わったことがわかる、明治40年のガス許可書と、大正5年の電気許可書



当時の工場は、日本工業大学工業技術博物館に工業技術関係のコレクション資料「町工場の典型例である東京下町の町工場(植原鉄工所・明治40年創業)」として復元展示されています(日本工業大学工業技術博物館より参照)

戦前戦中の記憶はおぼろげですが、避難した防空壕^{ぼうごう}の壁に飛行機の絵を描いていたそうです。戦後、芝区周辺は半分焼け野原でしたが、工場のある芝区の一部は戦火を免れました。

昭和 26 年(1951)、2 つ歳上の兄が中学通学のため三田通りにあった高橋商店で自転車を買ったと、店主の高橋長敏^{ながとし}さんが創立した「港サイクリングクラブ※³」から「自転車遠乗会のお知らせ」が届くようになりました。当時、白いご飯のおにぎり^{おのりかい}をもって、日曜日ごとに自転車で颯爽^{さつそう}と出かけて行く兄がうらやましかったそうです。

2 年後、郭さんが戦前より工場で使っていた自転車を引っ張り出し、兄の後ろについて、サイクリングに参加。おにぎりのおいしさと自転車が精神的にも、地理的にも自由な世界を拓いてくれることを知りました。以来、自転車業界に深く関わり、サイクリング文化の発展に大きく貢献していくことになります。

※3：日本有数の歴史を誇るサイクリングクラブで、令和6年(2024)に75周年を迎えました。郭さんは、昭和40年(1965)クラブの事務所を引き継ぎ、現在は会長を務めています。

二刀流の先駆け

昼は実家の工場で働き、夜は三田高校の定時制へ。定時制は4年制で、3年生から4年生の時は、昼間に慶應義塾大学の学生部で健保の窓口業務を勤め、夜は学校へ。

慶應義塾大学への入学を薦められましたが、兄と同じ法政大学へ。



三田に住んで85年。戸籍は東京都東京市芝区生まれ



フルオーダーは注文してから早くも2か月。ときには納品まで1年もかかるものも。自分の名前をフレームに刻むことも可能で、理想の自転車が手に入る喜びは何物にも代えがたい



店内に並ぶ、昭和20年代からの変速器や、さまざまなパーツのコレクション

エンジン是自己

自転車は人類が考え出した、人間の力がフルに活かせる初の乗り物です。その歴史は、1817年にドイツのカール・フォン・ドライスが足蹴り式の二輪車「ドライジーネ」を発明したことから始まります。1860年代にはフランスのピエール・ミショーが前輪にペダルを取り付けた自転車を開発。1885年にはイギリスのジョン・ケンプ・スターレーがチェーン駆動の「セーフティバイシクル」を発明しました。1888年にはアイルランドのジョン・ボイド・ダンロップが空気入りタイヤを発明し、乗り心地が大幅に改善されました。

日本には、1860年代に初めて自転車が持ち込まれました。明治末期から大正期にかけて、自転車は富裕層の間で人気を博しました。戦後の高度成長期には、庶民の交通手段として広く普及。1960年代には実用車が主流となり、1980年代には、健康志向の高まりとともにサイクリングブームが到来。

ロードバイクやマウンテンバイクが人気を集めていく歴史とともに、サイクリングの普及と発展に、中心人物として貢献してきた植原郭さん。自転車を列車に持ち込む際の規則や、「サイクルトレイン」などのサービス普及、競技自転車の一般化、ロードバイクやマウンテンバイクなどが多くの人々に楽しめているのも、郭さんのような「エンジンは自分」と、自ら世の中をこいできた人物がいるからでしょう。

「日本の5万分の1地形図に地名が書いてある山・峠・高原にはおそらく4,000ヵ所くらいは登ったように思います。途中で寄った城跡は北海道から沖縄まで3,600超。まだまだ行ってみたい城跡はたくさんあります」と穏やかな口調と笑顔で語る郭さん。自身の愛車は3台で、イギリススタイル※4のものです。郭さんのエンジンはまだまだ芝から日本全国を駆け巡ることでしょう。

※4: イギリスは丘陵地帯を走るために、起伏の多い地形に対応するため、頑丈で安定性の高いフレームが特徴。ギア比が低く設定され丘陵地帯でも楽に走行できるツーリングバイク。

取材：森 明 / 早川 由紀 文：早川 由紀

●誰も言わなかった自転車の本 植原郭 / 著 (青春出版社 1979.5)

●三田評論 2023年11月 (No.1282) (慶應義塾)

●福澤諭吉記念慶應義塾史展示館だより Temps No.05 (Oct.2023) (福澤諭吉記念慶應義塾史展示館)

●港サイクリングクラブ <https://minato-cyclingclub.org/>

INFORMATION

シクロサロン植原
港区芝5-20-22
TEL 03-3452-6968



自転車を選んで走り続けてきたのは、自分の体力・能力・技術を最大限に発揮して、自分の限界を打ち破ることに喜びを感じ、次々と新しい世界を拓いていく醍醐味があるから



自転車をバラしては組み立て、また新しい部品を付け替えていく。そのうちに古い部品が集まり、その余った部品を使って自転車をもう一台組み上げることもできる。そうして出来上がり、日々のメンテナンスで50年以上乗り続けている郭さんの愛車

大学卒業後、東証2部上場の丸石自転車(株)に就職。当時の自転車業界は通勤通学用自転車の買い替え需要が主で、全体の保有台数から考えればもはや飽和状態でした。「これからは自転車競技・サイクリング用のスポーツ車の開発とPRが必要」と考えた郭さん。入社まもなく「これからはスポーツです」と言って社内を歩きましたが、当時はあまり聞いてはもらえませんでした。「それならいつそ自分でやって見せる」と3年で退社。昭和44年(1969)、自宅の玄関の一部を改装し、スポーツ用自転車のオーダーメイド専門店「シクロサロン」を開店しました。

郭さんは先見の明がありました。昭和50年頃、あるメーカーが本格的なランドナー(旅行自転車)を発売。その人気に、各社がスポーツ車の開発に目を向けるようになりました。

丸石自転車から直々にオファーがあり、嘱託契約社員としてスポーツ車開発チームに加わることに。シクロサロンの経営も伸びていましたので、今

の「二刀流」を選択。その理由は「一台一台設計図を描くのもいいけれど、一枚の設計図を描いて、何千台もの自転車が走ることにつながる魅力は、別の楽しさ」だったそうです。

それから2年後に発売されたスポルティーフ(快走自転車)は、予想以上の大ヒット商品に。それに引っ張られて同じシリーズのランドナーやロードレーサー(競技用自転車)も売れて、15年間丸石自転車で働きました。その傍ら、サイクリング専門雑誌などから依頼があり、学生時代から執筆の依頼も続きました。サイクリング、自転車メンテナンス、コースガイドなどの原稿を書いてきた郭さん。講談社スポーツシリーズ『スポーツサイクリング』を加え、書店に並んだ自転車関連の著書は10数冊になりました。その知識と経験は多くのサイクリストにとって貴重なものとなっています。

おにぎりがうらやましく、自由に憧れた少年は70年、サイクルツーリストとして走りつづけています。



設計を手がけた名車「丸石エンペラー」は大ヒット



中学生の頃、物置からひっぱり出した黒塗りの実用車をオーバーホールしたり、改造したのがやみつきで、自転車の専門家に



自転車競技の歴史が垣間見られるポスター



自転車競技は、1896年の第1回アテネオリンピックから途切れることなく実施されている



自転車を模した時計や、自転車が描かれたさまざまなグッズ、書籍のコレクション

「ダメでも落ち込んでも、 人生は愉快に続いていく」 落語が教えてくれたこと

しょうふくてい う こう
笑福亭羽光さん インタビュー



——今日はよろしくお願いします。まず自己紹介をお願いします。

羽光：しばタグさんでは初めましてですね。笑福亭羽光と申します。52歳です。現在真打で、笑福亭鶴光の弟子でございます。今日はよろしくお願いします。

——港区に思い出などはありますか。

羽光：34歳までお笑い芸人をしていたんですが、六本木のアマンドに近いビルで管理人のバイトをしていました(笑)。飲食店などのテナントが入った雑居ビルで、鍵の開け閉めや、ときどき防火水槽をチェックしたりするだけの仕事でしたが、管理人室にずっといないといけなくてその間、ネタを作っていました。

——羽光さんといえば、独特な世界観の新作落語が人気です。当時のネタづくりが今に生きてるんですね。

羽光：そうですね。10年くらい続けましたよ。漫画原作者もしていたのですが、やはりここでシナリオを書いて。

港区の思い出といえば、六本木ヒルズの外で人に見られながら収録の待ち時間にネタ合わせをしたり。

ヒルズはお金持ちの象徴というようなイメージがあったので、売れてのし上がりたという気持ちでやっていましたね(笑)。

ゆりかもめに乗ってTV局にネタ見せに通ったことなど、けっこう思い出があります。

落語家になってからは、学校講演などで離島を訪ねる際に竹芝からフェリーに乗って行きます。古典落語の「芝浜」はこのあたりだったと思うと感慨深いものがありますね。

——芝地区は江戸時代の風情の名残が残る地域です。落語には江戸の人々の生活がそのまま描かれているのでしょうか。

羽光：当時は火事が多かったので「二番煎じ」や銭湯に行く「湯屋番」などがあります。銭湯は、庶民の交流や情報交換の場なんです。落語は人と人との触れ合いからお話になっていきます。

狸がしゃべったりする世界なので実際の江戸とはだいぶ違いますが、末広亭(新宿区)の楽屋にはほんと大きな火鉢が置いてあって、落語に出てくるご隠居の家にそっくりなんです。誰がどんな演目をやったかを書いていくネタ帳は墨で書きますし、太鼓があるし、落語家も三味線の人も毎日着物で生活している。江戸時代にタイムスリップしたような気分になります。

——高座のめくり(出演者の名前や演目を書いた台)の寄席文字は独特ですね。

羽光：文字を太く、なるべく隙間なく書くんです。これは、隙間なくお客さんが入りますようにということなんです。太鼓の音にも意味があるんですよ。開場時間に叩く一番太鼓では「どんどんどんどこい、どんどんどこい」とたくさんのお客さんに入ってほしいという願いが込められているんです。落語家が座る座布団は、縫い目のない方を客席に向けるんです。これも、お客さんとの縁が切れないように、との願いから。ほかにもあるんですが、こういった習慣は江戸時代から続いてきていて。縁起をかつぐことを大事にする教えがありますね。

——面白いですね！羽光師匠は以前「落語の世界に癒された」とお話されていましたが、どんなところにでしょうか。

羽光：「寛容さ」でしょうか。落語には先ほども

お話した狸や狐や長屋の店子や大家や商店の若旦那など、あらゆる人(動物)が登場しますが、そこそこ悪人は居ても、極悪人は出てこない。そして悪人にも愛嬌がある。例えば借金を踏み倒したりする人がいても、大家さんが「しょうがないなあ」と許してたり、寛容なんですよ。遊びに行くときはマヌケな泥棒も連れて、みんなで行く。切り捨てたりしないんです。

人間は本来ダメな存在で、だからこそ人間ですよ。ダメでも落ち込んでも、人生は続いていく。そんな普通の人に脚光が当たっているのが落語です。のらりくらりと生きる登場人物たちが僕は好きだし、だからこそ現在まで残っているんじゃないかと思ったりしますね。

「安心できる世界」。これこそ現代の人には必要なのではと、昨今のSNSを見て思ったりもします。

——では最後に、芝地区の良いところをお願いします。

羽光：竹芝のフェリーをもっと知ってもらいたいですね。あれは安全だし楽しい。外国の方にも竹芝から離島に行くコースをもっとアピールして、楽しんでもらえたらいいんじゃないかな。

住んでる人の約4倍の人口が芝地区の会社に毎日通ってきているということなので、懐が大きい地区といえますね。ここが落語と芝地区の共通点かなと思いました。

——ありがとうございました！これからも頑張ってください。

羽光：ありがとうございました。



笑福亭 羽光

本名：中村 好夫 1972年9月24日生まれ 大阪府出身

1998年 4人組お笑いユニット「爆烈Q」として活動開始
講談社週刊少年マガジンの第35回ギャグマンガ新人賞をきっかけに、「のぞむよしお」のペンネームでマンガ原作者としての活動開始
2007年3月に爆烈Qを解散し、4月笑福亭鶴光に入門。6月に落語芸術協会にて前座となる

2011年 二つ目昇進。古典&新作落語家として全国で活動

2013年 第12回さがみはら若手落語家選手権優勝

2013年 第24回北とぴあ若手落語家競演会大賞

2018年 渋谷らくご大賞創作大賞

2020年 NHK新人落語大賞

2021年 5月真打昇進、真打披露興行

笑福亭羽光・協会員プロフィール | 落語芸術協会

聞き手・文 逸見チエコ

「ワクワク校長先生」 港区立芝小学校

明治12年(1879)開校の港区立芝小学校は
開校147年をむかえる港区の中でも長い歴史と伝統のある小学校。
そこで子どもの未来を見つめる川原哲郎校長を訪ねてみました。

取材・文：竹内哲子

今の子どもたちに思うことは？

子どもの頃は、かけっこ、木登り、野球など、公園、空き地、自然の中で元気いっぱい遊ぶことが大好きなワンパク少年でした。今、都会の真ん中でそんな遊び場は少ないけど、せめて校庭でのびのび遊んでほしいと思います。また校外学習で芝公園などを一緒に歩くとき、土の香りや樹木から伝わる季節の変化や、数々の生物が小さくても力強く生きる様子を知ってもらい、自然の大切さと環境を守る心を伝えたいです。



プールでヤゴを見つけよう



脱皮したトンボ



グッピーの水槽の中で自然発生したマリモ?これから検査する予定です

時おり垣間見る
無邪気な笑顔

子どもたちは観察が大好き



すくすく育つアオムシ



サナギから蝶になる姿は奇跡のよう



好奇心旺盛な子どもたち



親しみ深い校長先生

子どもたちへのぞむことは？

「やさしい子」「よく考える子」「げんきな子」といつも言っています。やさしさは、友達、保護者、先生方、地域の人、いろんな人と関わって過ごすことで生まれます。自分らしさを大切にして、人や社会の役に立つことを考えられる人になってほしいですね。そして、毎日、元気に楽しく過ごすのが一番！

子どもの頃の夢は？

近所の大きな牧場が遊び場だったこともあり、海外の大きな牧場で働きたかったですね。それと、夜空に光るスペースシャトルを見て宇宙飛行士になるのも夢でした。



展覧会では幻想的な宇宙を思わせるプロジェクションマッピングが部屋を彩ります

今、力を入れていることは？

運動会、展覧会などの学校行事を地域の方に公開することと、地域の街探検、花育、ビオトープ(人工池)などを通じて、情緒豊かな子どもを育てたいと考えています。



元気いっぱいのグッピー



カブトムシの幼虫が眠っているところ

..... 筆者の感想

大変気さくな校長先生の部屋は生き物がたくさん。水槽の魚、冬眠中のかたつむり、植物。カブトムシの幼虫を手に乗せると「起こさないで～」と。夏は子どもたちが育てたキャベツで、「アオムシ」→「サナギ」→「モンシロチョウ」になり大空へと羽ばたくのをみんなで見守ります。生き物の話をするとき、校長先生は目が輝き、ワクワクした少年のよう。校長先生が丁寧にお世話する昆虫や小さな苗が花を咲かせるまでの様子から子どもたちは大きな活力をもらいます。それはバタフライ・エフェクトとなり、子どもたちの将来に大きな影響を及ぼすでしょう。小さな生き物から地球の環境を学んでほしいと願う「ワンパク少年」→「自然大好き青年」→「ワクワク校長先生」まさしく最終進化系の川原校長なのでした(^ ^)/

町会自治会 TOPICS

町会・自治会ってなあに？

町会・自治会は、同じ地域に住んでいる皆さんが自主的に結成し、防災・防犯、環境美化、コミュニティなど、さまざまな活動を自主的に行っている団体です。地域の行事や活動、日ごろのご近所さんとの交流が、住みよい暮らしにつながります。今回は、町会同士が協力して行った防災イベントを紹介します。

「PINPOINT BOSAI TORANOMON (ピンポイント防災)」

虎ノ門一丁目琴平町会 × 桜川町会 令和6年11月1日(金) 開催

とらのもんいっちゃんめ ことひらちようかい さくらがわちようかい
虎ノ門一丁目琴平町会 × 桜川町会

(虎ノ門一丁目琴平町会エリア:虎ノ門1-2~15/桜川町会エリア:虎ノ門1-16~23)



虎ノ門ヒルズビジネスタワーに面している西桜公園を会場として使用



芝消防署にも協力いただき起震車体験も行った



左:桜川町会長の林さん。右:虎ノ門一丁目琴平町会長の古澤さん



第1部『ビルと地域の防災』をテーマにデベロッパーや町会長のトークセッション

PINPOINT
BOSAI
TORANOMON



かまどで温めたスープ料理



町会員の方々が協力して料理を提供



試食したお客さんが投票



西桜公園の「かまどベンチ」



笑顔計測の結果の様子

港区だけでも地域によって地理や特性も違うので、災害に対する備え方が違うのでは?という仮説のもと、自身が活動する場所で災害が発生した時その日、その場所で何ができるのか?「ピンポイントで一つだけでも避難場所を覚えてもらいたい」というコンセプトから始まった『PINPOINT BOSAI TORANOMON (ピンポイント防災)』。

令和6年(2024)11月1日、虎ノ門一丁目琴平町会と桜川町会が協働して主催する防災イベントが港区立西桜公園で開催されました。このイベントは港区の補助金を利用して実施し、昨年に続き2回目の開催となりました。

イベントは2部構成になっており、第1部のトークライブでは、東京消防庁芝消防署の職員らが登場し、エレベーター乗車時に地震が発生した場合の対処方法や街頭消火器、AEDの使い方についてレクチャーしました。また、町会員でもあるデベロッパーらによるトークセッションも実施し、各企業で実施している「災害発生時の初動対応」や「備蓄」などについて熱いトークを繰り広げました。

第2部のお笑い企画「虎笑門(とらえもん)」ではお笑い芸人3組が登場。それぞれお笑いネタを披露し、会場内に設置した笑顔度を測る計測器で、どの組が最も地域の人たちを笑顔にしたかを計測し競いました。

また、会場では災害時にかまどとして利用できる「かまどベンチ」を体験するため、公園に設置されている「かまどベンチ」を使用した料理対決企画「TAKIDASHI GRAND-PRIX2024」も行われました。町会員の飲食店3店舗がそれぞれ用意した自慢のスープ料理をかまどで温め、各町会員が協力してイベント参加者へ料理を提供し、試食した参加者による投票でグランプリを競いました。

その他、イベント参加者には虎ノ門の防災情報を載せたオリジナルマップや防災グッズを配布し、楽しみながら防災に関する意識や知識を身に付けることができるイベントとなりました。

町会・自治会への加入はこちらから

二次元コードをスマートフォンで読み取り、LoGoフォームから申請してください。後日、該当する町会・自治会または区担当者から連絡します。



お問い合わせ 芝地区総合支所協働推進課協働推進係
〒105-8511 港区芝公園1-5-25
TEL 03-3578-3123

区民参画組織 芝会議のご紹介!

芝会議って何?

芝会議とは、芝地区をよりよいまちにするためのアイデアを地域の皆さんが持ち寄る「自由な議論の場」です。その芝会議の中の3つの部会についてご紹介します。

(1) まちの魅力発掘部会

芝地区の魅力を発掘し、地域の皆さんに伝えて地域で共有し、さらに新たな地域の魅力発掘に結びつけます。地域の歴史や自然が形成している、芝地区の魅力を伝えるツアーや座学を実施し、芝地区内外に情報を発信しています。

活動日

原則、毎月第二火曜日
18:20~20:00
年数回、土日イベントあり

活動場所

芝コミュニティはうす
(芝5-13-15芝三田森ビル2階)



(2) まちづくり部会

芝地区を誰もが安全で安心して住み続けることができるまちにするため、海の環境汚染や地球温暖化の抑制などの環境に関する課題や防災など、芝地区のまちづくりについて検討し、芝地区クリーンキャンペーンでの啓発や理解を深める講演会を開催し活動しています。

活動日

月1回、18:30~19:30
年数回、土日イベントあり

活動場所

神明いきいきプラザ
(浜松町1-6-7)



(3) 地域コミュニティ部会

芝地区のコミュニティ意識を醸成し、多様な人々が協働して地域の課題解決に取り組む仕組みづくりを考えています。地域住民の世代を超えた交流や地域の誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざして、地域でできることを検討し活動しています。

活動日

月1回、18:30~20:00
年数回、土日イベントあり

活動場所

港区役所
(港区芝公園1-5-25)
新橋区民協働スペース
(新橋6-4-2)
など



桜田学校課外授業 ばるーんプレーパーク

港区立生涯学習センターの前のグラウンドで、子どもたちが遊びを通して、自分たちで作り出す楽しさを体験できる「ばるーんプレーパーク」を、令和6年（2024）3月に行いました。

木工作や色水遊び、コマにお手玉、音遊びなど、好奇心を刺激するものがたくさんあります。これらから自分の遊びを作り出し、赤ちゃんから大人まで豊かに遊べる環境づくりと地域のつながりを大切にする場所となります。

「ばるーんが子どもの頃から生涯にわたって、ここで学ぶ楽しさや学びたいことを発見し、安心して学び続けられる居場所になってほしい」と、馬場館長が望まれています。

都心でこんなに大勢の子どもたちが集まる場所になっているのだと再発見しました。



いろんな遊び、見つけられるかな？

3月27日(木) 10～15時、
桜田公園グラウンドで
「ばるーんプレーパーク」
が行われます。



いろんな遊びの中から、コマを回します



雨でも楽しく、水遊び



ヨーヨー、うまくできるかな？

INFORMATION

港区立生涯学習センター(ばるーん)
〒105-0004 港区新橋3-16-3

TEL 03-3431-1606 MAIL baloon@kissport.or.jp
<https://www.kissport.or.jp/sisetu/shogaigakusyu/guide/>



取材・文：千葉 みな子

芝の家・ちゃぶ台日誌 春編

文：芝の家・芝地区総合支所協働推進課

今回は年に一度の芝の家主催のおまつり「いろはにほへっと
芝まつり」(2024年11月3日開催)のご紹介です。



16周年となる今年のテーマは「手ぬぐい振って 音頭踊って
思い出イロイロふりかえろう!」

15周年の記念に作った手ぬぐい(この日初お披露目)を持って、新しく作った音頭を踊ったりしながら旧芝の家から今までの芝の家を思い出してみようという1日でした。

芝の家は、芝地区の地域事業「地域をつなぐ! 交流の場づくりプロジェクト」の拠点。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で始まり、事務局スタッフとボランティアスタッフが日々の場を運営しています。姉妹拠点「ご近所ラボ新橋」(港区新橋6-4-2)と合わせてお気軽にお立ち寄りください。

INFORMATION

芝の家 港区芝3-26-8 TEL 03-3453-0474
〈開室日時〉火～金 11:00～16:00/土※ 12:00～17:00
※芝のはらっぱ活動日を除く
〈休室日〉日・月・祝 <http://www.shibanoie.net>
開室時間は変更が生じる場合もあります。
最新の情報はホームページや掲示板をご覧ください。

どなたでも自由に入出りできる「まちの交流拠点」芝の家。日々近所の方から遠方の方まで、年代も0歳～学生～シニア世代の方まで、多種多様な方が立ち寄ります。

芝の家の日常とイベントなどをご紹介します。イベントはどのイベントもどなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。詳細はホームページをご覧ください。



お手伝いをしてくださった皆さま、遊びにきてくださった皆さまありがとうございました!

町内会の皆さんや子どもたち、他たくさんの有志の方々の企画が盛りだくさん!お天気にも恵まれて、多くの人に楽しんでいただきました。



記念手ぬぐいのお披露目と、記念手ぬぐいと消しゴムはんこのコラボブース。



15周年記念手ぬぐいは芝の家でも販売中です。
写真のように消しゴムはんこでオリジナルも作れます。



いろは通りでもいろいろ。ペーゴマ、チョークの落書きなど昔あそび。



町内会の皆さんや有志の方々のブース。

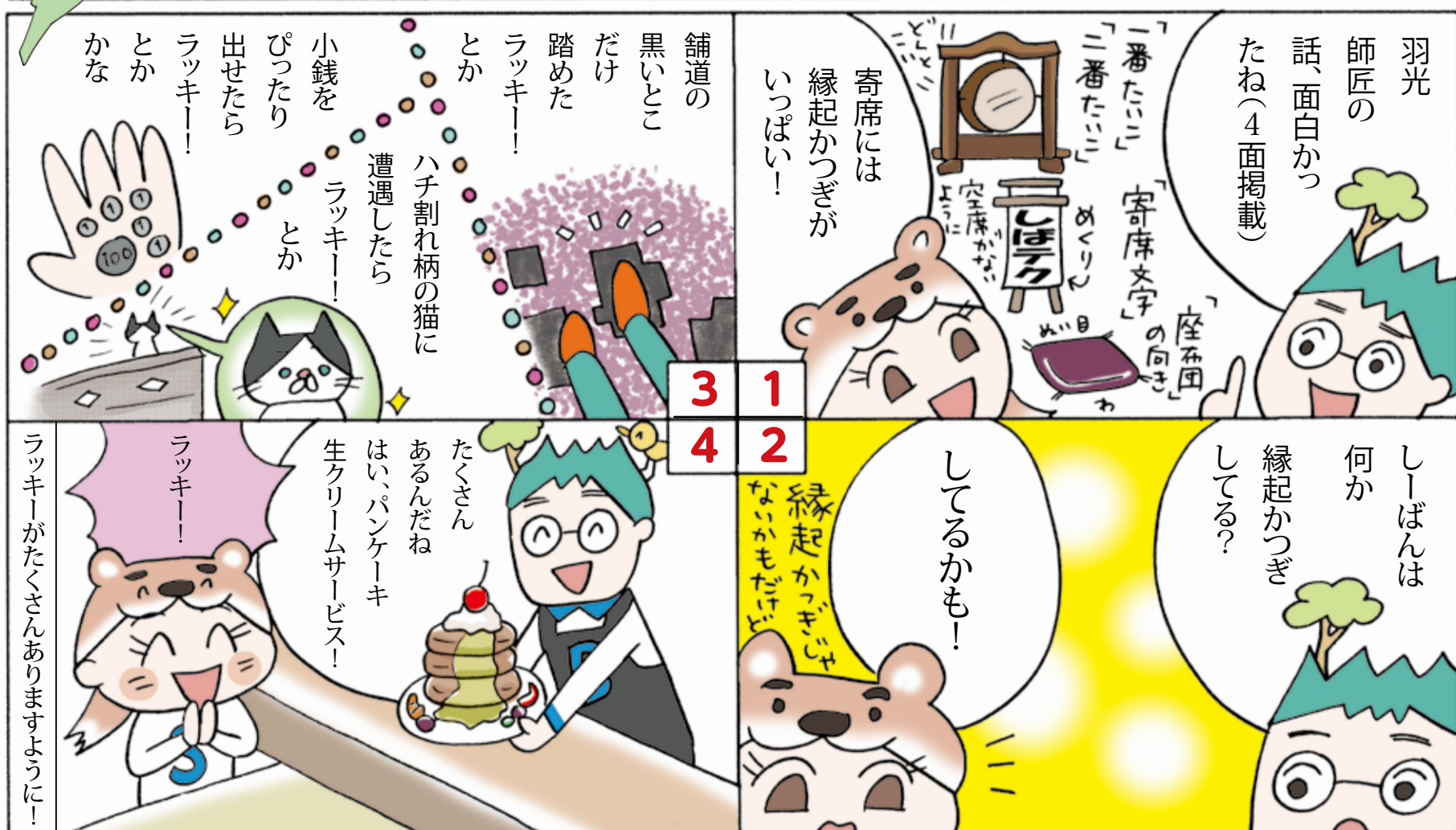


芝の家室内は本格的なお茶室に。



子どもたちも大活躍!





しーばん

芝地区に住んで3年目。
まち歩きが趣味



ばっしー

芝地区にあるカフェの2代目店主。歴史オタクでもある



Follow me!

芝地区総合支所 公式SNS



X (旧Twitter)
@shiba_minato



Instagram
@minato shiba official

港区芝地区総合支所協働推進課
〒105-8511 港区芝公園1-5-25(港区役所2階)
TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180
<https://www.city.minato.tokyo.jp>



- 編集委員……伊藤早苗／菊池弓可／桑原庸嘉子／竹内哲子／千葉みな子／土岐恵子／早川由紀／逸見チエコ／森明(敬称略)
- 配布場所……芝地区総合支所内の地域・芝、海岸一丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田一～三丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕)の方にのべてしているほか、地区内各施設などで配布しています。

芝地区地域情報誌「**しばたぐ**」
ボランティア編集委員

募集!

芝地区の魅力を発信し、地域への愛着を深めるために、地域情報誌「しばタグ」の編集委員を募集しています。文章を書くのが好きな方、いろいろな人の話を聞くのが好きな方、芝エリアが好きな方、ぜひ「しばタグ」の編集委員として活動してみませんか？

对象

芝地区在住、在勤、在学者、または芝地区の魅力を発信したい方

活動内容

地域情報誌「しばタグ」の作成に関わる取材、原稿作成、編集会議への参加
○編集会議は年間6回、平日の夜間に行います
○取材は主に日中に行います

注意事項

ボランティア活動のため、交通費や報酬は支給されません

申し込み・お問い合わせ

興味がある方、参加してみたいけど不安がある方も、ぜひ一度お問い合わせください。

皆さまのご応募をお待ちしております！

芝地区総合支所協働推進課 担当 杉木

電話:3578-3122 FAX:3578-3180 E-MAIL:minato75@city.minato.tokyo.jp

各支所では、地域情報誌(情報紙)を定期的に発行しています。

支所内各戸配布のほか、港区立図書館（高輪図書館分室を除く）・各いきいきプラザで閲覧可能です。

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」
- 高輪地区総合支所「みなとっぴ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあっぷ」

区役所のサービスや施設・催しの案内
みなとコール
TEL 03-5472-3710
 (年中無休 8:00~20:00)

買い物
するなら
地元の
商店街で

**Going shopping?
Visit our
shopping
streets.**